

『早合点は、欲まみれ。』

貪りと怒りと愚痴は、誰しもが多少なりとも身に覚えのあることばかりですが、どうして沸き起こってくるのかご存じですか。

先ず、貪りは、得たものを味わい熟慮する間もなく、次の物を欲しがらる、余裕の無さから沸き起こります。

次に、怒りは、相手の態度や背景を見ようともせず、ただただ瞬間的に言い返すことから沸き起こります。

最後に、愚痴は、反省もせずにひたすら境遇を嘆き、現実を見ようともしない時に沸き起こります。

すなわち、いずれの煩惱も、早合点や早とちりの産物で、一息入れて熟慮すれば、大方は解決することばかりなのです。

御大師さまは、「誤った考えを助けるものは無知である。」と、軽々な判断と、辛抱できない弱いところが、煩惱の種を作り続けていると言われました。

良く味わいましょう、総ての出来事には、表面には現れていない沢山の深い意味と、微妙なところが隠されています。仏法とは、すなわち衆生のころなのです。

平成二十四年十一月

川上修詮記